

繋げよう! 安心、安全、信頼の輪

Z E N S H O K Y O

全商協

全国遊技機商業協同組合連合会広報誌

1 JANUARY
2012
VOL.9



新春特別対談■伊豆正則回胴遊商
理事長 ◎中村昌勇全商協
会長

年頭所感■8単組理事長



謹んで新年のご挨拶を申し上げます
本年もよろしく願いいたします

全国遊技機商業協同組合連合会
会長 中村 昌勇

Z E N S H O K Y O
全 商 協
全国遊技機商業協同組合連合会広報誌
CONTENTS 1 JANUARY 2012
VOL.9



羽子板の起源は
「邪気を跳ね返す板」として
女の子の成長を願う風習からきている
このカラフルな羽根のように
2012年が明るい年に
なりますように

1	新春特別対談 伊豆正則 回胴遊商理事長 ◎ 中村昌勇 全商協会長
6	全商協と回胴遊商の中古機流通に関するあゆみ
7	NEWS 「顔認証システム」を全地区遊商で導入 理事会報告
8	年頭所感 東遊商・中村理事長 北遊商・遠藤理事長
10	東北遊商・高橋理事長 中部遊商・安藤理事長
12	関西遊商・和久田理事長 中国遊商・松原理事長
14	四国遊商・日野理事長 九州遊商・石山理事長
16	達つあんの辛口コラム
17	役員さん登場! 福地健次 副理事長
20	地区遊商だより Vol.5
22	2011年を振り返って
24	業界NEWS・お知らせ・編集後記



回胴式遊技機商業協同組合
伊豆正則理事長

全国遊技機商業協同組合連合会
中村昌勇会長

新しい展開の時代 緊密な協力と 強力なリーダーシップに期待

互いに情報を交換し
キャッチボールしながら

司会 本日は、新年号の巻頭を飾る合同「新春対談」ということで、中村会長、伊豆理事長にご足労いただきました。本日はじっくりとそれぞれの団体の動き、取り組みなどをご紹介いただき、今後に活かしていきたいと思います。とりわけいま重要なのは、中古流通制度が新しい展開の時代を迎えているように思えることです。

伊豆 我々の事業の中核である中古流通に関して、これまで色々な努力を重ねてきました。しかし、どうしてもまだ一部理解の行き届いていないところがあるように思えます。こうした人たちに對してどう対処していくのか。これは全商協も回胴遊技商も共通の課題です。一緒に力をあわせていかななくてはなりません。

中村 伊豆理事長とは、そうした課題を解決すべく、色々な場面で協議を重ねています。こうして、改まって対談という場でお話するというのは、実はおかしな話ではあるんですよ（笑）。頻繁にお会いしていますからね。要は、今、



回胴式遊技機商業協同組合 伊豆正則理事長

伊豆理事長がお話になられた共通の課題に、どうやって一緒に力をあわせて取り組んでいけるか？ということだと思っています。全商協というのは8単組があつて、回胴遊商が8つあるような組織になっています。これではまとめるのが大変です。しかし、単組ごとに別のルールがあるようではいけません。これを何とか同じ土俵に乗せようとしているわけですが、全商協というのは時間がかかるんですよ。今まではかかりすぎていました。しかしこれからはそれではいけないと思っています。これまでとははるかに違うスピードでやっていますよ。

伊豆 回胴遊商としても、様々なルールについてどのように全国統一を図っていくのか？ということについては、これからの大きな課題だと思っています。そのためには各支部が各地区遊商とどう連携を図っていくか？という事を検討していく取り組みも重要だと思っています。

中村 お互い、課題はいろいろあります。ただ、中古流通制度ができて10年余。大きな事件、事故もなくここまで運営してこられた事は、非常に大きな成果だと思えます。こうした積み重ねが大きな自信につながっているわけですね。だからこそ、残された障害というのは、考えてみれば、もうそう難しいことではないのではないだろうか？ハードルは案外、簡単に越えられるのではないか？と思います。もうそういう時期に来ているということだと思

います。当たり前な事ですが、きちんとルールに従ってやっていけば、業界での自分の位置というのを確信できるはずですよ。そういう意味では、それほど大変なことではない。あとは本当に一部のルールを理解していない人をどうするかということなのです。回胴遊商さんにも見習うべきことは見習って、相談すべきことは相談して、やっていけると思っています。大丈夫ですよ。

伊豆 私たちも同じです。大いにお互いに情報を交換し、キャッチボールしながら、健全化に向けてめていかなければならないと思います。

中村 これからですよね。速やかにどういう共通のハードを使うかとか、そういう話に移っていかねばならないと思います。

伊豆 今、メーカー（日工組、日電協）の側から再構築が提案されている（遊技機管理アイテムとしての）ICタグの共通化は、今後のテーマになると思います。そうした中に、我々の提案も入れてもらい、現場のホールさんの要望も入れてもらいながら、新たなハードやシステムを構築していきたい

と思っています。

中村 ちょうどいいタイミングなんです。メーカーさんの新しい構築には、1年くらいかかるそうです。そのような準備期間の間に、私たちの提案をまとめ、日工組、日電協に要望を出せばいいと思います。ハードの共通化、たとえばスキャナーを共通化すれば、アプリケーションソフトを配布するだけで済みます。そうすれば遊技機取扱主任者は1つのリーダー機でどの機械も読み取ることが出来ます。後は、こうしたハードを使う上での共通のルールさえ決めておけば、ホールさんも安心して使うことができます。業界全体としては、少々お金はかかると思いますが、ぜひ実現しなければならぬと思います。

伊豆 業界全体でお金を出すべきです。メーカー、ホール、販社が応分の負担をし合い、業界全体で話し合いながら作るべきだと思います。

環境を整えて、更なる 中古流通の健全化を

司会 これまで両団体の間でこうした提案がまったくなかったとい

うのが不思議です。今回のような具体的な提案がなかったこともあ
るのかも知れません。

伊豆 今は、4団体とか5団体とか、業界のトップが決めて、それが上から降ってくる、というよう
な形で行われてきたことが多々あ
りましたからね。これからは、実
際の流通に携わっているメーカー、
ホール、販社が、それぞれの立場
から見えてどうなのかということ
を、我々の立場からの意見も取り入
れてもらい理解と納得した上では
じめることで、スムーズな運用が
できると思います。

中村 システムの検証が、アナロ
グではなく、デジタルですばやく
簡単にできなくてはならない。本
当にホールさんも関わって、きち
んと行われた取引であることが、
はつきりと検証できるシステムで
なければならぬのです。取扱主
任者なら主任者、遊技場管理責任
者なら責任者できちんと検証でき
なくてはいけないと思います。

ルール通りに運用している組合
員から見ると、さらに手かせ足か
せ負担を強いるのか？と受け止め
られかねません。しかし、誰もが
与えられたルールどおりに運用し

ているという事が証明できれば、
あとはそうでない人を取り除けば
いい話です。いつでもすばやく簡
単に検証できれば、適正な中古機
流通ができる。その辺をファジー
にしたまま引きずってきたのが、
これまでの10年間です。

何か起こると、主任者は何して
いるのだ？ということになってし
まう。ICタグによる機械の一元
管理システムの導入は、そうした
曖昧さを根本から改めるよい機会
です。こうなればもう後は本人の
問題です。点検確認の技術の問題
です。いいかげんな点検確認しか
できなければ、やがてはそういう
人には仕事が回ってこなくなりま
す。今後特にそうなるはずですよ。
全商協では、いま各単組ごとに一
生懸命その技術指導に当たってい
ます。あくまで目で見て確認する
目視点検や触手点検の技術ですか
ら、不正を見抜けるということが
前提です。それが、仕事ができる
ということなんだと思います。

パチンコは特に大変ですよ。釘
が曲がっているだけでもダメなん
だから。この点では、パチンコと
パチスロの点検技術はまったく違
います。ホールさんの中には、取

扱主任者なんだから、両方やれば
いいじゃないかなんていう人もい
ますが、それはできません。回胴
さんにしても、大変でしょう。パ
チスロの場合も、ハーネスの本数
数えるだけでも大変な作業だと思
います。こうした技術こそが販社
の生きる道であるし、証しだと思
います。これがなかったら、販社
の存在価値はありません。伊豆理
事長が、この10年間、ずっと言い
続けてこられたのも、そこですよ
ね。

伊豆 そういう意味では、昨年、
回胴と全商の相互参入を解消し、
ぱちんこは全商協、パチスロは回
胴遊商と棲み分けをしました。棲
み分けしたことで両団体で中古参
入組合員に対して徹底したスキル
アップを行うことが出来たと思
います。

中村 そうですね、そのまま続け
ていたら、いずれ点検確認自体を
否定される事態になります。

伊豆 中古機の点検確認というの
は、車の車検と同じです。車には
整備士の免許がいるように、中古
機には点検確認の技術が必要です。
それも、必要に応じて1級、2級、
3級というレベルの向上も図って

くことも、必要になってくるかも
しれません。パチンコ機とパチス
ロはもちろん別物です。ホール様
が安心して中古機を使えるように
きちんとした環境を整える必要が
あると考えます。中古流通に参入
するためのハードル、それを持続
するためのハードルをつくり、キ
チンと整えて更なる中古流通の健
全化を目指してやっています。

中村 それこそが組織の責任です。
方法はみんなで議論し選んでいけ
ばいい。1人が決めてやるものでは
ありません。たくさんの方の
中から選ぶのは、回胴遊商の中の
委員会であり、全商協の中のしか
るべき委員会です。誰か1人の人
間に決めてもらえないようなもの
であってはなりません。方法はいろ
いろあると思います。組織の責任
をしっかりと認識したうえで、行
政とも相談し、他団体ともよく話
し合いながら、決めていかなばな
らないと思います。

顔認証システムは デジタルによる検証 そのもの

司会 全商協における顔認証シス
テムの全国導入についてはいかが

でしょう。

伊豆 顔認証は今期中にできるよ
うになるんでしょう？

中村 昨年11月2日の理事会で承認を受けました。今期中（平成24年3月末まで）には動き出します。残された問題というのは、どの機械を使うのかというような問題です。北海道遊商などでは従来から（QRデータ等の通信端末として）ドコモの利用が多く、東日本

遊商においては、今ではKDDIのみの運用となっていますので、いきなりどちらかに合わせるというのも大変です。ドコモの機械でも同じように使えないかというようなことを、今検討しているところなんです。顔認証は、先ほど申しあげた「デジタルによる検証」そのものです。

「その人にしかできない」ということを証明するためのもので、決められているとおりに運用している組合員を守るためのものでもあります。やはり、こういうシステムを導入せざるを得ない時期に来ていると思います。今期中には必ず導入しますよ。たしかに地区遊商によっては、このようなシステムを導入する必要について疑問視

する声もあるかもしれません。たとえば、北海道、四国などでは、販社の数も少なく、みな顔見知りです。このような場合、なぜ顔認証まで…という疑問の声が現場から上がっているのは分かります。しかしこのシステムは、そこまでやることで、ルールに従って運用している組合員を守るための手段なのだという事で、ご理解いただいています。

レベルアップのために 主任者制度の改革を

司会 これまで、何かことあるごとに、われわれ販社のみが責任を追求されてきました。これらのシステムの導入によって、そうした不公平感は解消されるのでしょうか。

中村 何か事故や事件が起こっても、後から正しく検証ができれば、そういうこともなくなるといいます。主任者と管理者がきちんと確認して検査に出す。本来こうしたことが正しく行われていれば、なにも問題はないはずです。しかしこれまでは、そうしたことが行われたかどうか？という事を検証し証明することができませんでした。

検証するシステムがないから、「身分証明書を見せられたがよく分かりませんでした」とか「本人だと思いましたが」と言われればそれでおしまいだっただけです。しかし、これからは、顔認証を偽造して、点検確認作業を装ったり、登録された取扱主任者でないとか分かっていながら見逃していたとすれば、当然関わっていた者すべてが処分を受けることになるでしょう。

逆に、正しく行われたことが証明されれば、販社が一方的に責められることはなくなるといいます。中古流通における処分の量定基準

の議論では、たしかにホール側の話は出てきません。しかし、これは不正が行われて被害を受けるのはホール側であるということが前提になっている話。だからホールがこうした違反や不正行為に関わることは考えられない、というわけなんです。ただし、中古流通というのは、ホールも販社も責任を負うという約束の元に流通制度が運用されてきました。従来ははっきりと検証できなかったことを受け、それならばはっきりと検証できるシステムにもって行きましょうというわけです。回胴遊商さんと協

力して1年以内にそういうシステムを作り上げれば、点検確認未実施による事故もなくなるのではないのでしょうか。

伊豆 販社側、ホールさん側での責任の明確化に努力している中で、販社側は量定基準でこれを担保しています。現状、管理者の業務負担が多いことは理解していますが、管理者の責務を遂行するには、以前提案した管理者の補助員制度の導入を検討してはどうでしょうか。現在、管理者については、実際に現場でその人が管理者なのかどうかの確認が困難です。今後、全日さんと協議して管理者としての中古流通における責務を確認し中古流通を更にいいものにして継続して行くにはホールさんの協力がなければできないと思います。

中村 1都10県ではありますが、組合に届け出ている取扱主任者の写真付きの名簿を作成してホール様、所轄警察署にも配布しておりますし、これらの情報に変更や削除、新規登録があれば広報誌に載せています。これは、行政にもなかなか良い取り組みであると褒められましたけど、他県ではまだなかなか踏み切れませんね。



全国遊技機商業協同組合連合会 中村昌勇会長

実際、名簿や広報誌に掲載したときのショックは大変なものでした。色々な方面から電話が沢山かかってきて、「この男は違いますよ」とか、「この男はいつからこの会社にいるのですか？」など、問い合わせが殺到し、期せずしてブローカー（非組合員）といわれる人たちがあぶりだされてしまうこととなりました。

ブローカーの社員であるにも関わらず、組合に加盟している会社に所属しているように見せかけ、トラブルを起こすケースが非常に多い。彼らには我々のようなルールなどありませんから、未然に事

故を防止するためにも、こうした情報を提供することも重要であると考えています。もちろん、顔写真まで出すわけですから、個人情報保護の観点などから十分な検討を加え、クリアした上で話です。

任者の写真をHPで公表しようとして検討に入っています。

ホールさんがアウトサイダーの主任者に依頼することがないように、また、登録販社に所属している主任者を確認することが出来るようにしようと思っています。

中村 日遊協にもこのことは申し入れて、登録の時にどちらかの組合に所属するよう指導してほしいとお願ひしています。

日遊協から直接資格を得て、どこかの会社に名前だけ登録して仕事をしている人達もいますが、こういう人たちはやはりどこかでルールを甘く見ているようなところ

がありますよね。

伊豆 日遊協の規則では、登録販社には遊技機の取扱いに従事する従業者の3割は遊技機取扱主任者の資格を持つていなければならぬとされていますが、中古機流通に携わるなら、本来は10割が有資格者でなくてはならないのではないのでしょうか。今後、主任者のレベルアップをはかるべく主任者制度の改革は必要と思います。

販売登録業者もレベルアップをはかり流通健全化の一環として公安委員会に登録するぐらいにすべきと思います。

誇りを胸に 時代に適応し 両団体が二層の前進を

司会 最後に、お正月ですし、例年ならもう少し明るい話からはじめたいところでしたが、ご承知のように、昨年は東北地方を襲った未曾有の災害など、激動の1年でした。経済の低迷も何時好転するのか、皆目わかりません。遊技業界も変革の時代を迎えていると思います。これから販売会社がどのように関わっていくべきか、お考えをお聞かせ下さい。

中村 中古機流通制度の発足により、ホール様に対してはコスト面でも非常に大きく貢献することができたと考えています。その額はこの10年余りで数千億円にも上るとの分析結果も出ているようです。今後、中古機流通の健全性を一層高め、この制度を存続させていくことが、我々、販売会社の存在価値を高めることにつながると考えています。

伊豆 まさにそのとおりですね。

市場を切り開いてきたのは私たち販売会社です。その誇りを胸に、これからの時代の流れに適応し変化していかなければならないです。また、自らが新たな潮流を作り出す努力をすることも必要です。そして、それを実現するためには、全商協と回胴遊商による、より緊密な協力が不可欠だと思います。

中村 私も、平成24年を機に、両団体が一層力強く前進できるようにしていきたいと思っています。

司会 お二人が強力なリーダーシップを発揮され、遊技機販売会社が、そして遊技業界全体が大きく飛躍していくことを期待したいと思います。

全商協と回胴遊商の
中古機流通に
関するあゆみ

1989年(H元年) 3月	全国遊技機商業協同組合連合会が、法人化され創立総会を開催 新・確認証紙を使用することを傘下8組合に通知
1998年(H10年) 1月	全日遊連・機械対策委員会の呼びかけで、中古機勉強会が遊技会館で開催 この勉強会が、後の業界6団体(全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商)で 構成される「中古機流通協議会」の原点となる
6月	回胴式遊技機商業協同組合が創立総会を開催
7月	関東通商産業局から回胴式遊技機商業協同組合の設立認可が下りる 所轄法務局へ組合登記を行い組合成立
1999年(H11年) 4月	回胴遊商で「設置確認シール」貼付事業開始
2000年(H12年) 5月	業界6団体で構成する「中古機流通協議会」の発足会が全日遊連で開催
6月	「中古遊技機流通健全化要綱」等に基づくぱちんこ中古遊技機の新制度がスタート
2001年(H13年) 2月	回胴遊商で地区会合を支部に改編し、支部活動を本格化
2002年(H14年) 12月	回胴遊商組合員のぱちんこ中古機流通参入につき、中古機流通協議会及び 全商協、回胴遊商で度重なる協議 「組織として参入・全商協組合員を通じて書類発給」で検討が進行
2003年(H15年) 9月	全商協と回胴遊商が、回胴遊商組合員のぱちんこ中古機流通事業への参入で「覚書」に調印
11月	回胴遊商が、ぱちんこ中古機流通事業に正式参入
2004年(H16年) 5月	回胴遊商組合員13社が、全商協組合員を経由し、ぱちんこ中古機流通を開始
7月	風営法施行規則等の一部改正が施行
2005年(H17年) 2月	「特例営業者の管理者」(取扱管理者)による中古機流通が可能となるなど 「中古遊技機流通健全化要綱」が大幅に改正
11月	全商協と回胴遊商で、ぱちんこ・パチスロの中古機流通の相互参入について、 新たに「覚書」「実施細則」「合意書」を取り交わす これにより、平成15年(2003年)に取り交わした「覚書」は廃止
2006年(H18年) 4月	パチスロ中古遊技機(5号機以降)の中古機流通がスタート 全商協傘下8組合の約280社が回胴遊商に参入し、パチスロの中古機流通に携わる
2007年(H19年) 10月	「認定申請」取扱い業務を暫定的に開始
2008年(H20年) 7月	「認定」に関する事項を追加して「中古遊技機流通健全化要綱」を改正
2010年(H22年) 5月	全商協と回胴遊商で中古機流通の相互参入について、新規参入者の受付を 停止し、平成23年3月31日をもって相互参入を解消する「覚書」を取り交わす
6月	「型式の同一性の確保」「責任の所在の明確化」を重視した新中古機流通制度が開始
2011年(H23年) 3月	全商協と回胴遊商の中古機流通業務の相互参入が解消・終了
8月	全商協・回胴遊商で中古機流通に関する連絡会議を開催

「顔認証システム」を全地区遊商で導入

新年度までには、完全実施を目指す！

中古ばちんこ遊技機の点検確認を行う際に、東遊商と中部遊商では、確実な点検確認作業について本人確認を立証するため「顔認証システム」を実施している。

このたび、他の6地区遊商でもこのシステムを順次導入し、平成24年4月までには、全地区遊商で実施することとなった。

点検確認をおこなっている者が、「取扱主任者本人に間違いのない」という本人確認のセキュリティを全地区遊商で強化するのがねらいだ。

使用するソフトなどは、各地区遊商でいくつかのシステムから選択するが、例えば東遊商の「顔認証システム」は、次のような手順で行う。

- ①、取扱主任者各個人に組合から貸与された専用携帯端末にインストールされた「位置情報送信」アプリを起動し、作業を行った場所を特定する位置情報を取得する。位置情報は携帯基地局とGPS（通信衛星）による緯度経度で自動的に測定される。
- ②、携帯端末のカメラを用いて顔写真を撮影し、位置情報と共に東遊商のサーバーへ送信する。
- ③、続いて「QRシステムバーコード読取」アプリを起動し、保証書作成時における点検確認作業か、設置先営業所における納品設置確認作業かを選択。身分証明書に記載されている自分のQRコードと当該中古遊技機の(1)遊技盤(2)遊技機枠(3)主基板の3か所のQRコードをスキャン。
- ④、③の読み取り情報を送信、「送信完了」のメッセージが表示された事を確認し、作業完了となる。

なお、顔写真の撮影に際し、画面から顔が外れてしまった写真や暗く

て判別できない写真などは、認証できない場合があるので、撮影された写真を確認することとなっている。

中村会長は、「中古機流通については、8地区遊商で同じ方向性で取り組む必要がある。現在の中古機流通



画像はイメージ

制度を維持するには、取扱主任者本人が、間違いなく確実な点検確認を実施するということが大原則。

セキュリティは、何を行ってもそれで充分というわけではない。一人ひとりの日々の細かい丁寧な業務が、大きな信頼につながることを、全組合員が心に刻んでほしい。実際の導入にあたっては、各地区遊商で費用などの情報交換を行い、連携して実施していく」と意見を述べた。

第7回理事会

開催日 平成23年12月2日（金）

開催場所・出席人数

全商協会議室・出席理事数21名

議題と審議結果・主な報告内容

第75回中古機流通協議会の報告について（12月1日開催）

- ・全商協確認証紙の発行枚数を、中古用は、9月10万8426枚、10月10万3891枚、認定用は、9月2万6465枚、10月1442枚発行したことなどを報告した。
- ・平成23年度上期の仮決算報告について
- ・事務局より、平成23年度中間決算報告書が提出され、概要説明を行った。

その他
・QRシステムをWindows7に対応できるよう、作成することが決定した。

・「顔認証システム」を平成24年4月までに全地区遊商が導入する予定であることが報告された。

・（財）交通遺児等育成基金へ平成24年3月までに寄付を行うことが確認された。

・遊技機リサイクル業者選定に関する事項は、各地区遊商で責任をもつて対応することが確認された。

・地区遊商からの違反に関する報告は、全商協組織委員会で「その他の事例と照らしあわせ、処分が公平であるかを確認する」ということが再確認された。

各地区遊商「顔認証システム」導入予定表

組合名	導入予定など
北海道	平成24年4月1日までに導入
東北	平成24年4月1日までに導入
東日本	導入済
中部	導入済
関西	平成24年1月15日頃より研修実施、その後順次導入して4月1日までは全員が実施
中国	平成24年2月から研修開始、3月中には全員が実施
四国	平成24年4月1日までに導入
九州	平成24年4月1日までに導入

※各地区遊商の導入スケジュールは上記のとおり
なお、導入にあたっては、各地区遊商で説明会を実施する予定

全国8単組の連合体である全商協は、これまで信頼される組織として、他団体と共に遊技業界の発展を担ってきました。諸先輩方のご努力もあり、中古機流通に係る打刻業務を中古機流通協議会から委嘱されていますが、この信頼に応えるためにも、私たちは適正な中古機流通を維持していくために、その責任を果たし続けなければなりません。

全商協の一員である東遊商でも、中古機の流通業務における事故の未然防止と事件の徹底阻止を実行するため、中古機を取扱う全ての組合員、取扱主任者、実務担当者が参加する更新研修会を毎年継続して開催しています。また、主任者向けの研修会や、点検確認実務の周知徹底を図るため、少人数制の実務講習会を毎日開いて実技講習とスキルチェックを行い、確実な点検確認作業が実施されるよう努めているところです。適正な中古機流通を維持するためには、たとえ打刻申請書類を届ける事務職員であっても、その書類の重要性を認識しなければならず、中古機流通業務に携わる一人ひとりが果たすべき責任を自覚することから始まります。そのために大切なのは、一人ひとりが当事者であるとの意識で研修会に参加することであり、事故・事件を必ず防ぐとの意識を共有し、決められたルールを全員で確実に守ることが、中古機流通協議会から委嘱を受けた私たちの責務となります。

そのため、東遊商では、中古機流通を取扱う組合員から1名ずつ機械対策委員を選出していただき、グループ単位の会議や全体会議を開催するなど、中古機流通業務に対する意識の向上を図っています。今年も取扱主任者のスキルアップと中古機流通に携わる全ての従業員の意識向上を図るため、更新研修会や実務講習会などを通じて徹底した啓蒙活動を行い、事故・事件を未然に防ぐシステムの構築に力を入れていきます。また、昨年は、行政当局の担当官が東遊商を訪問され、中古機流通事業の業務内容と主任者向けの実務講習会を視察されました。これまで適正な中古機流通を維持するため努力を積み重ねてきましたが、その成果を詳細に見ていただき、私たちが如何に責務を果たしているのかということをご理解いただけたのではないかと思います。

さて、私は決意を表す文字に「発」を選びました。この言葉には、組合員の意見や気持ち、想いを代表して”発”していくとの決意が込められています。今年も組合運営がスムーズに図られるよう、必要な情報を組合内外に発信し、組合員にとって身近な存在となるよう組合の事業を運営してまいりたいと思います。

全商協会長 東遊商理事長

中村昌勇

共通意識のもと 事故の未然防止を徹底する



一筆の想い「発」

組合員の意見、気持ち、想い
その全てを代表して
業界内に「発」していく

迅速な対応で スピーディな情報伝達を図る

北遊商理事長

遠藤重廣



一筆の想い「縁」

お互いの絆や、つながりを
大切にしていきたい

昨年も遊技業界は厳しい状況でしたが、道内をみても、1円パチンコの稼働低下が懸念されるなど、明るい兆しは見えませんでした。パチスロは増台傾向にありますが、その影響で1円パチンコが減台されるという環境の変化がありました。そのため、1円パチンコで使用されていた機械が流通すると期待しましたが、思ったよりも動きが見られないのが現状です。

さて、昨年6月から新中古機流通制度が開始されて1年半が経ちますが、現在では大きな混乱もなく、組合員は粛々と制度を遵守し、適正な中古機流通の維持に努めているところです。北遊商では、毎年開催しています研修会や実技講習会で、取扱主任者を始め、中古機流通に携わる組合員の従業員のスキルアップや意識の向上を図っています。特に取扱主任者を対象とした実技講習会では、それぞれの出席者がパチンコ機を会場に持ち込み、点検確認作業の手順や注意点を再確認すると共に、ゴト対策も含めた不正行為への見識を深めています。さらに、札幌方面組合が開催しています合同展示会に協賛していますが、この展示会で開催されますゴト対策セミナーにも北遊商の組合員が多数参加し、常日頃から不正対策への研鑽を重ねています。

これからも北遊商では、中古機流通制度の違反者を出さないよう啓蒙活動を徹底していき、顔認証システムの早期導入を実現するなど事故の未然防止に取り組んでいきます。

また、新中古機流通制度では、ホール様が撤去遊技機明細書と中古遊技機確認書を作成しなければなりません。一部で書類の記載ミスなど不備が見受けられます。これらホール様が作成する書類に不備があると、北遊商としては打刻申請を受け付けることはできず、再申請によりホール様の計画に支障をきたす恐れもあります。そこで、北遊連を通じてホール様には、慎重な書類作成と適切な保管・管理をお願いしています。

今後も北遊商として、中古機流通制度が円滑に運用されるよう北遊連とも連携を図りつつ、ホール様と一体となって健全な遊技機の流通を担う立場としての責任を果たしていきます。

最後に、今年は諸処の問題に素早く対応できる態勢を整え、スピーディな情報伝達を図っていきます。昨年は、全商協にテレビ会議のシステムが導入され、迅速に意思決定がされる態勢が整いましたが、このスピードを遅らせることなく組合運営に邁進していきます。

昨年3月11日の東日本大震災は、東北地方の沿岸部を中心に甚大な被害をもたらしました。東北遊商の組合員に人的被害がなかったことは幸いでしたが、自宅や社屋の浸水被害など被災した組合員への影響は図り知れません。しかし、震災後に全商協並びに全国7単組からの義援金や支援物資を始めとする暖かい支援が、組合員や従業員に勇気を与えました。この場を借りて、改めて心より感謝を申し上げます。

さて、私は、昨年6月8日の第23回通常総会にて、理事長に選任され、理事会の所信表明で、①組合事務局の強化、②組合経費の見直し、③青年会の活性化、④5部会再編の検討、⑤「和」、の5点を掲げました。

これから組織力を向上させるためにも、職員のスキルアップなど事務局の充実化を図り、中古機の”匠“を目指す目的で設立した青年会でも、取扱主任者の研鑽と組合幹部候補を育成するため、ワーキング会議など現場目線で諸問題を議論してもらい、5部会もより効率化を図るために再編の検討に入る予定です。

中古機流通は、平成12年6月以来、販売業者が作成する保証書で以て中古機が流通しています。この保証書の作成は、中古機流通制度の根幹をなすとても重要な業務です。そこで、組合員に対しては、ルールの確実な遵守がなければ健全な流通が阻害されるとの危機意識を共有させるために、今年も研修会等を通じて徹底した啓蒙活動を継続していきます。

一方で、取扱主任者など中古機流通に携わる従業員の労働環境の問題もあります。東北地方は南北に長い地域であり、移動だけでも相当の時間を要するほか、特に冬場の気象条件は過酷となります。中古機流通制度における保証書作成の重要性と、全国で統一されたルールのもと運用されるべきことは重々承知しておりますが、今後は組合員の実状も考慮しながら、負担軽減に向けた議論もしなければならぬと感じています。

また、震災後は各方面から多大な支援を受けましたが、今後は支援を受けるだけでなく、遊技業界が国民から支持され、理解されるよう、改めて社会貢献活動に力を注ぎます。これから何が必要なのか、東北遊連と共に検討を重ね、具体的なアクションを起こします。

最後に、今年は、山積している諸問題を、一つひとつ着実に対処していかなければなりません。そのために地に足を付けて、東北人らしい忍耐強さを以て組合運営に邁進していきます。

東北遊商理事長

高橋一則

東北人らしい忍耐強さで 諸問題に対処する



一筆の想い「和」

和を以て貴しとなす
協同組合の原点である
相互扶助の精神を大切にする

中部遊商理事長

安藤利彦

3つの判断基準で 組合運営に邁進する



一筆の想い「考」

諸問題の解決だけでなく、
業界の将来を見据え、
具体的な議論を進める

新流通がスタートしてから1年半が経過しました。開始当初は混乱もありましたが、研修会など周知徹底を図ってきた結果、新流通への組合員の理解も深まり、現在は適切に運用がされているところです。また、中部遊商では、4年前に顔認証システムを導入するなど、適正な中古機流通を維持するための仕組み作りにも常に取り組んできました。

新流通では、組合員には多大な負担を強いてはいますが、型式の同一性を確保するための保全処置が実行されたことで、セキュリティレベルが格段に高まったと評価されています。今後も中部遊商として、行政当局や各業界団体からの信頼を損なわないよう、継続的な啓蒙活動に取り組み、ルールの徹底を図っていきます。

また、中古機流通に関する諸問題への取り組みだけではなく、社会貢献活動として献血や清掃活動を引き続き実施していくほか、環境対策として、JAFと三菱自動車の協力のもと行っているエコドライブ講習も継続していきます。

さて、今年は、5年、10年先を見据えた準備を始める年だと考えています。これからの組合運営や業界の将来を真剣に考え、議論を深めていく時期に来ていると感じているからです。

例えば、仮にカジノ法案が国会を通過し、施行された未来において、業界を取り巻く環境はどう変化するのでしょうか。そうした業界の将来をイメージしながら、組合が進むべき道を模索しなければなりません。これまでは、適正な中古機流通制度の維持に力を注いできましたが、次のステップとして、今後の方向性を決めていく議論を活発化させていきます。

それには、組合の次代を担う若手の育成も急務だと感じています。現在は専務理事を座長とする「明日を語る会」を継続的に開き、委員以外の若手や、若い役員が参加して活発な議論を展開しています。この会は、将来の役員候補を育てることが目的でありますので、積極的な議論を通じて若手個々のスキルアップを図っていきます。

そして、今後の組合運営には、組合員の利益となり、業界の発展に寄与し、国民にも理解されることが大切ですので、この3つの判断基準を基に組合の方向性を示していきます。

考

昨年は中古機流通の根幹に関わるような違反者を関西遊商から出しましたことを深くお詫び申し上げます。再発防止に向けて、取扱主任者以外が中古機流通に携われないように顔認証システムを導入すると共に、目視点検の精度を高めるために、実機を使った講習会を取扱主任者の資格を持っている約500人を対象に1月からスタートします。実機を使った27項目の点検確認は、これまでも行ってきましたが、今回はさらに模擬の不正部品を取り付けている実機を使って、不正箇所を発見するテストも行います。中古機流通の精度を高めるために組合員一丸となって取り組んでいく所存です。

さて、昨年9月から運用がスタートしたテレビ会議システムは移動時間と経費の削減につながるだけでなく、参加する人数が増えてきたことは、問題意識をより多くの人が共有することにもつながります。今後は組合事務局同士の実務者会議などにも活用して、より効率的に事務処理方法の共有化を図ることもできます。

関西遊商では昨年7月から5つの委員会（セキュリティ、機械対策、総務、リサイクル・環境対策、綱紀）の委員を公募しました。組織運営の使命感も高く、35人のメンバーが集まりました。委員会活動も活発に行われるようになりました。点検確認の実機テストや顔認証システムの導入に際しては、委員会のメンバーが東遊商や中部遊商へ直接訪問して、指導を仰ぎました。

パチンコ業界はより厳しい時代を迎えています。1円などの低玉貸しが当たり前の時代になり、新台の販売台数も年々減少しています。新台が減れば当然中古機市場に回ってくる台数も限られてきます。

こうした原因はいろいろあるとは思いますが、業界関係者は一致結束してお客様に喜んで貰えるような“遊技環境”を提供することです。そのためには努力と工夫が必要です。われわれは販社の立場ですが、業界が一丸となってこの問題に取り組まなければ市場規模の減少を食い止めることはできないと思います。

微力ながら関西遊商では理事会や委員会の情報を組合員に発信すると共に、意見交換の場を設けて、現場の建設的な意見も吸い上げ、業界活性化の一助になれば幸いです。

関西遊商理事長

和久田守彦

中古機流通の精度を 高めるために研修を強化



一筆の想い「直」

真っ向からの直球勝負。
まっすぐ、素直な気持ちを
込めました

中国遊商理事長

松原陽輔

取扱主任者のスキルアップで 不正機を撲滅



一筆の想い「動」

激しい年になると予想される中で、
積極的に常に動くことで
日本の活性化に寄与したい

昨年10月、中国地方のメーカー、ホール、販社から50人ほどが参加して「遊技機の販売方法の意見交換会」が開催されました。迎えて3回目の今回はもっと安い機械の提供、不公平な販売方法の是正などを巡り、ホールもメーカーも本音に近い話し合いをすることができました。三者三様の立場から最終の着地点を目指す方向性は見えてきました。いずれにしても業界団体の垣根を越えて、業界が一丸となってお客を増やす努力が必要となってきます。まずは若者からお年寄りまでが楽しく遊べる遊技環境を整えること。そのためには機械代を下げるのが求められます。

中古機流通システムの目的は不正機排除の取り組みでもあります。全商協としてもシステムのハード面における強化と研修も随時行っていますが、取扱主任者の責任の自覚と共に、スキルアップが求められます。パチンコ業界の地位が上がらない理由の一つに、不正機が足を引っ張っていることが考えられます。メーカーには不正ができない機械を開発してもらうと共に、取扱主任者のスキルアップで、全体の底上げが図られたその先に、不正機は撲滅できると確信しています。スキルアップのために実技研修を行うと共に、“新QRシステム”を導入していく意向です。

3.11以降、何事においても迅速な対応が求められるようになりました。テレビ会議システムの導入は、まさしくタイムリーで、全国8単組のコミュニケーションが図れるようになりました。事務局間でも分からないことがあれば、テレビ会議で気軽に聞くことができるようになりましたので、地区の温度差がなくなっています。

昨年3月末に組合の研修旅行を予定していました。東日本大震災直後ということもあり、急遽中止することになりましたが、その旅行代の予算全額を義援金に回すことにしました。組合として胸が張れるのは、一人の反対者もなく全会一致で決議できたことです。一致団結して物事を進める団結力の大切さを再認識しました。

明るく元気な日本にするために、業界を挙げて楽しく遊べる健全なパチンコ、パチスロを提供することで盛り上げていきたいと思います。

動

昨年は組合創立50周年の節目を迎えることができました。これを機に組合理念を作成しました。それが「私たちは、思いやりの精神を大切にし、一人ひとりの未来のために集う」です。組合員が合宿して組合のあるべき姿を真剣に話し合った結果、相互扶助の精神がなければ組合は成り立たない、という結論に達してこの組合理念が生まれました。

さらに行動指針として4つのしん＝「進」「深」「新」「親」を掲げ、遊技業発展のための「進化」、お客さま満足のための「深化」、地域社会発展のための「新化」、組合員扶助向上のための「親化」に努めて参ります。

50周年が終わり、今年は新たな1年の始まりです。組合理念を行動に移す年でもあります。皆さん商売をしているので利益を出すことも大事なことです。皆で作った組合理念を大事にして、気持ちが一つになれば不正は防げると思います。相互扶助の精神があれば、ルールでがんじがらめになっても組合とは対峙することはない、と確信しています。

不正対策の防止に向けては顔認証システムを4月から導入していきます。また、昨年11月には取扱主任者を対象に点検27項目の研修会も実施しました。不正配線なども見つけれられるよう試験官を配置して実技試験も行いました。これは継続的に実施し目視の精度を高めていきます。

テレビ会議は大ヒットといえるでしょう。技術も進んで画面も鮮明で臨場感があり、すぐに参加した皆さんも慣れて活発な意見交換が行えるようになりました。

社会貢献活動としては、50周年事業でスタートさせた「接待木の植樹」を社会貢献事業の柱として、継続的に進めていきます。これは四国を巡礼するお遍路さんのために、柿やビワなど食べられる樹木をお寺の境内や公園に植樹していきます。50周年の昨年は遍路道に50本植えました。今年は51本、来年は52本、再来年は53本と毎年1本ずつ増やしていきます。

パチンコ産業は「身近な健全娯楽」として世の中に欠かせない存在であらねばなりません。メーカー、ホールと共に、我々はこの業界を守る義務があります。そのためにも、組合創立から51年目を迎え、四国遊商の組合員になって、経済的にも、精神的にも幸せになれてよかった、といわれるような組合にしていきたいと思っています。

接待木植樹を 社会貢献活動の永続事業に

四国遊商理事長

日野泰昌



一筆の想い「進」

一步一步進む四国遊商。
組合員同士で結束して、
100周年に向かい進んでいく

「信頼の全商協」の地位を 築き上げる年に

九州遊商理事長

石山敬達



一筆の想い「誠」

組合の代表として、
誠意を持って恥ずかしくない活動を
やっていきたい

中古機流通システムでなによりも重要なことは、点検後の
保全措置と受け渡す時に取り扱い主任者と管理者の相互確
認の徹底です。行政の理解の下、業界で取り決めた作業工
程を履行することです。そのためにイレギュラーが発生し
ないシステムを構築し、監視を怠ることなくやっていかな
ければなりません。

そこで重要なのは、業務の実態とルールがかい離してい
かないように注意を払わなければならないということです。
例えば、現行制度では事前点検確認と設置後の点検確認を
販社の正社員が行っています。事前点検確認については、
人員の手配が付かない場合は断ることができますが、納品
はホールの予定で決定されるので、納品点検の人員配置は
販社の頭痛の種です。また、一般の売買とチェーン店移動
では、中古機に対してホール側の考え方が全く違います。

したがって、保証書を作成した者が責任を果たすための
補助的なシステムや流通形態別の「責任の所在」の分岐点
についての研究も必要になるのではないのでしょうか。ただし、
型式の保全のレベルが下がったり、責任の所在が曖昧にな
ったりするものではあってならない事は言うまでもありま
せん。

加えて、われわれ販社に課せられている使命は、不正品
の流通を阻止することです。そのためには点検技術の向上
を目指さなければいけません。昨今の不正は日進月歩で、
やりかたも多種多様になっています。それを見破るためにも
点検確認の研修会の内容をより精度の高いものにし、そ
れを取扱主任者の方々に理解してもらい、身に付けてもら
います。それができなければ中古機流通制度から退場して
いただくしかありません。これが我々に課せられた責任です。

テレビ会議は遠く離れた者同士がスピードを要する事案
について直ちに確認できるようになったことは非常に便利
です。回数を重ねるごとに意見をまとめて発言するようにな
ったので、会議の質の向上が図られています。今後は組
合の垣根を越え、回胴遊商など他団体との連絡会議にも使
えれば、新たな展開も期待できます。

今年は業界内はもとより行政当局からも「信頼の全商協」
としての地位を築き上げて行きたい。そのためにはまず、
作業履行に関して手抜きをすることがないよう、指導を徹
底し、システムを構築することが第一の課題であります。
しかし、不幸にして発生した場合は、再発防止に向けて、
これまで以上に厳正に対処していかなければなりません。
他のすべての組合員の努力を無駄にしてはならないのです。

達つあんの辛口コラム



すぐ上の世代であるニッパチ組は、ともに戦った身近な先輩方じゃから思いも強くなろうというもの。それぞれの球団のお家事情もあるやろうが、3人とも責任を取って

日本が未曾有の災害に襲われた2011年は、振り返れば野球界にとっても、まさに激動の1年じゃったね。3・11のあの震災の影響でレギュラーシーズンの開催さえ危ぶまれた中、すったもんだの末の開幕遅れとはいえ、つつがなく予定を消化できただけでも幸せだったと言えるのではないか。「被災した方々に勇気を与えた——」野球に限らず、主にスポーツ界からの発信でこうしたフレーズが目立ったが、逆に被災地発の復興の息吹から勇気をいただいたことの方が多かったようにも思うのはワシだけじゃろうか。

日本シリーズを秋山ソフトバン

クが制して幕を閉じたが、今年のキーワードを挙げるなら「ニッパチ」ではなからうか。西武と熾烈な優勝争いを繰り広げるまっただ中の8月、突然の「勇退報道」がスポーツ新聞の1面で踊った日本ハム・梨田昌孝監督。それからおよそ1か月後、今度は連覇を目前にした時期にこれまた「勇退報道」に見舞われた中日・落合博満監督。さらにはクライマックス・シリーズ出場権を惜しくも逃がしたとはいえ、続投ムードが急転して辞任へ追い込まれた阪神・真弓明信監督……。この悲劇の指揮官トリオの共通項が、そろって昭和28年生まれで結成された「ニッパチ会」のメンバーという点だった。

元巨人エースの江川卓、元ミスタータイガースの掛布雅之、それに私はいずれも昭和30年生まれ。

ユニホームを脱がなければならぬような成績ではなかったと思う。特に落合監督の場合は極端じゃった。何しろ就任以来の8年間、日本一を含めずとAクラスをキープし続けたうえにリーグ連覇。文字通り「非の打ち所がない成績」ではないか。「地元人気がないからナゴヤドームの客入りが悪い」などと批判されたが、現場を預かる監督の立場からすればお門違いもはなはだしい「言いがかり」よね。実は私、広島島の捕手として中日の主砲だった落合さんと対決した現役時代から妙にウマが合った。ぶっきらぼうな印象とは違う温かさが魅力だった。今シーズン終盤のある日、大スランプに苦しむ主砲・和田を監督室に呼んだ。自らバットを手に、直接指導するためじゃった。それだけならよくある話じゃが、ここからが違う。もう一人、最愛の信子夫人をもこの場に呼び寄せていた。手本を示す監督に夫人が「アンタの方がいいスイングしてるよ」と言うミスター三冠王は「バーカ、1年もたねえよ」と照れたという。

日本シリーズでは「先発投手の質と量」でソフトバンクに遅れを取り、日本一を逃がした。明暗を分けたワンプレーは、中日が2勝

1敗とリードして迎えた第4戦の5回。1点を追う1死一、二塁、打者・井端でフルカウントからホールトンが投げたのは「ボール」と判定されてもおかしくない低めへの球。それを細川が絶妙のキャッチングでストライクと判定させ、三振ゲッツーに。もしも四球なら恐らくは中日が逆転して日本一にまで駆け上がっていったに違いない。ワシはそう見とるね。

地味な展開ばかりと言われたが、それほど質の高いシリーズやったということ。主役は最後までクルな采配に徹した落合監督じゃったね。「オチアイは近い将来、必ずまた監督として戻って来る」という信子夫人の言葉を信じた。い。新球団も誕生した今年が、球界にとって実り多き1年でありますように！

達川 光男●たつかわ・みつお

1955年7月13日、広島県出身、55歳。広島商では73年夏に全国制覇。東洋大を経て78年、ドラフト4位で広島入団。捕手として84、86、88年にベストナイン、ゴールデングラブ賞を獲得するなど活躍し92年に現役引退。95年ダイエーコーチ、98年広島2軍監督を経て、99年から2年間広島監督。03年阪神コーチ。現スポーツ報知野球評論家、フジテレビ・プロ野球解説者として活躍中。

この大震災を振り返り
仲間の「絆」の深さを改めて知って
感謝の気持ちを伝えたい



役員さん
登場!

福地健次

全商協理事 東北遊商副理事長

東日本大震災をきっかけにパチンコの存在意義が問われている。被災地宮城県仙台市に本社を置く株式会社ソレイユの福地健次社長（東北遊商副理事長）は、その問題を肌身で感じている。しかし、東北が復興していく過程で気軽に楽しめるパチンコなど身近な娯楽の提供は必要、と説く。

義兄（元東北遊商理事長
刈谷準一郎氏）に
懇願されて入った業界

「全商協の役員が若返りを図る中、年齢的には上から2番目になってしまいました」と話すのは東北遊商の副理事長で、全商協の機械対策副委員長を務める福地健次理事だ。27歳でパチンコ業界に入り、業界歴は35年になる。今でこそ業界一筋にやってきたことを誇りに

思い感謝しているが、最初は好きで入った業界ではなかった。

業界へ入るきっかけは、名古屋へ嫁いでいた福地理事の義姉夫妻が、地縁もなしに太陽電子（現タイヨーエレクト）の東北地区の総発となる株式会社仙台太陽を設立したことによるものだった。

当時の東北地方は西陣、SANKYO、平和の関東メーカーが強い地盤で、名古屋メーカーの市場占有率はわずかだった。名古屋メーカーの知名度が低い土地柄でアレンジボールでの市場開拓を狙った。メダルを使うゲームとしては一部のホールに藤商事の雀球が導

役員さん登場!



お酒が入っていてもいなくても、常に笑顔を絶やさない陽気で明るい人柄は、誰からも慕われる相談役でもある。キャリア十年のベテランとしての仕事ぶりは、頼れる先輩だ。ゴルフの腕前は安定感抜群、曲がらないのは性格と同じ真っすぐ。好感持てる人間として身近な存在、大好きな演歌を唄えば、十八番の「思い出の仙台」は誰もが聞き惚れるほどです。

東北遊商 福地健次副理事長トリビア

血液型	AB型
座右の銘	初心忘れるべからず
好きな本	最後の将軍
好きな色	赤
好きな音楽	演歌
好きなスポーツ選手	長嶋茂雄
好きなタレント	北野たけし
好きな歴史上の人物	伊達政宗
カラオケ十八	思い出の仙台
趣味	ゴルフ
将来の夢	心豊かな暮らし

入されていた。
義兄は1軒ずつアレンジの面白

さを説明して回り、やがては東北
6県の県遊協の理事長の店舗に導

入してもらうほど、
信頼を築き上げ、
顧客を徐々に増や
していった。しかし、
契約書があっても
ないような時代で、
集金できないケー
スも出てきた。右

も左も分らない土地で信頼のお
ける人材が必要になってきた。そ
れで白羽の矢が立ったのが、仙台
でサラリーマンをしていた義弟の
福地氏だった。

「休みの日にお客さんとしてパチ
ンコはしていましたが、自分がパ
チンコ業界で働くイメージがどう
しても湧いてこなかったのだ。誘
いを半年以上も断り続けていまし
た。最後は『お前しかいない。手
伝ってくれ』と懇願され決心しま
した」。

義兄が営業して、福地氏はアフ
ター全般を担当した。東北の各公
安委員会へ新台を持ち込んで認可
取りをしていたことは、懐かしい
思い出となった。

仙台太陽としてアレンジボール
での実績が出てくると、名古屋メ
ーカーから販売の依頼が来るよう
になる。やがて京楽、ニューギン、
豊丸、大一等々殆どの名古屋メー
カーを扱うようになった。福地氏
が代表者となってニューギン東北
を設立した。

時代は流れ、メーカーが直販体
制を強化したことで、メーカー名
を冠した会社は返上し、ソレイユ
1社に統合して現在に至っている。

震災後、4日目にして やっと辿り着いた仙台

3月11日、午後2時46分、未曾
有の大災害。福地理事は全商協の
理事会に出席していた。非常に強
い大きな揺れが9階の会議室を襲
った。ケータイで地震情報を確認
した一人が「福地さん！宮城県沖
地震だよ」と叫んだ。すぐに会社
に連絡を入れた。会社はもちろん、
誰のケータイにもつながらない。
現地が大変なことになっているこ
とだけは想像できた。揺れが収ま
ったところで、会議を抜け出し、
鞆を掴むと一緒に来ていた渡邊理
事長、千葉事務局長の3人で9階
の非常階段を駆け下りた。

東京駅八重洲口周辺は人でごっ
た返っていた。とにかく仙台に帰
ろうとしたが、新幹線は止まって
動かない。駅のテレビで現地の状
況が刻一刻と伝えられる。津波で
車や家が流される映像に胸が締め
つけられた。津波映像を見て石巻
市に住む親戚の顔が浮かんだ。い
てもたつてもいられない状況だが、
鉄道や道路も寸断され、仙台まで
帰る手段がないことがやっと分か
る。気がつけば3時間余り八重洲

口を彷徨っていた。

新聞紙を敷いて野宿を覚悟した時、全商協の事務所のことを思い出す。事務所へ引き返すと幸い事務所に人が残っていた。コンビニで食糧を調達しようとしたが棚から品物が消えていた。当日は全商協の事務所で一夜を明かす。

翌日は何とか銀座のホテルを確保することができた。それでも帰る交通手段がない。その時福地理事のケータイへ1本の電話が入る。仙台でパチンコ業界誌「フェイム」を発行する友道学さんからだった。

全商協の会議で東京へ来ていることは知っていたので、帰る手段がないことを心配して電話をかけてきてくれた。命拾いする思いだった。高崎駅まで行けば、友道さんの車で仙台に帰れることになった。

3日目の夜は高崎駅のビジネスホテル一泊。翌朝、友道さんと合流する。車はワンボックスカーだったのでダンボール3箱分の水や食糧を買い込む。帰る手段は確保できたものの問題はガソリンだった。新潟ならガソリンを満タンにできるという情報を得て、新潟山形へ仙台という変則ルートで仙台に戻ったのは地震発生から4日

後だった。

若林区上飯田にある事務所は広瀬川の堤防からも近い。川を逆流する津波の影響はなかったものの、シヨールームの巨大なシャンデリアが天井から落ちて、事務所内は足の踏み場もないほどモノで散乱していた。自宅は半壊状態だった。幸い家族や社員にけが人はいなかった。しかし、奥さんの実家である石巻市は津波被害が甚大だった。実家は600年以上の歴史がある神社だった。高台にあったが、30mの津波がすべてを飲み込んだ。未だに発見されていない親族もいる。

非常時で問われる パチンコの存在意義

震災直後はガソリン不足で遠くから車通勤していた社員は、出社することさえも困難だった。出社できるものだけが出社して事務所の片づけから始まった。当たり前が当たり前でない生活、まずは移動手段として自転車を買った。「あるメーカーの社長に『助けて欲しい』とお願したところ、九州、広島、大阪、東京から4トン車一杯の救援物資が届けられました

た。缶詰やカップラーメンのほか、灯油がドラム缶で届けられました。水もとても貴重だったので助かりました。さらに、全国の地区遊商の皆様からも多大なご支援を頂き、大変に励まされました。心からお礼を申し上げたい」と仲間との絆のありがたさを改めて知り、被災生活を振り返る。

東日本大震災後、パチンコ業界は何かにつけバッシングの対象になった。東北6県のうち、県によっては5月まで新台入れ替えも自粛した。津波被害がなかった仙台市内では、電気、ガス、水道のインフラが普及すると早々と店を開けるホールも出てきた。「この非常時にパチンコなんかとんでもない」というのがパチンコをやらな人たちの厳しい目だった。しかし、ホール側としてはケータイの充電やトイレを自由に使って欲しい、という願いも込めて店を開けた。

「被災者の方の中には家も仕事もすべて失い、何もすることがない人もいらっしやいます。仮設に入っていると鬱になる人も少なくありません。賛否両論はありますが、パチンコが気晴らしになって救わ

れている、という人もたくさんいらっしやいます」。

ソレイユの得意先でも被災したホールが少なくない。津波で店を失った沿岸部では再開発のメドも立たないために、再開を諦めるホールもある。

「『全部店が流されたわけではない。被害がなかった店があるのだから、おじいちゃんやの代からはじめたパチンコをわれわれの代で潰すことはできない』と息子さんの声に励まされて、やる気になった社長もいます。福島は再開できないけど、仙台に店があったので助かった、というオーナーさんもいます。東北が復興していく過程でパチンコなどの娯楽は必ず必要になってきます。本当にパチンコ業界が愛されるためには、機械のレパートリーを増やすなど、身近な娯楽としての環境作りが大切ですよ」と復興を誓った。

割数計算も遊技機の修理の仕方でも分からないままに入った業界だったが、社員に恵まれ35年間続けてこられた。これからは「業界へ恩返し」のための人生を捧げる覚悟だ。

東北遊商

東北遊商では、組合のホームページをリニューアル。トップページには、岩手県陸前高田市の景勝地・高田松原で、津波被害に耐えて1本だけ残った“奇跡の一本松”の写真を掲載した。さらに、「繋げよう！安心、安全、信頼の輪」という全商協スローガンも添えた。高橋理事長は、「理事長あいさつ」の中で、岩手県、宮城県、福島県のホールなどの被災状況を伝え、今後の業界の行方を危惧しながらも、組合運営については、総務委員会や各専門委員会の充実により理事会運営を円滑に行い、若い組合員による「青年部会」の活動などに力を注ぐと語った。

また、「和をもって転換」という言葉をキーワードに「組合運営の転換」「業界環境の転換」に取り組みたいと意欲を示した。千葉事務局長は、「震災前、高田松原には数万本の松が植えられていました。それが、たった1本だけ残りました。この“奇跡の一本松”のように、東北遊商組合員は、どのような状況でも生き残り、希望を忘れないということを内外にアピールできれば」とホームページのリニューアル効果に期待した。

ホームページをリニューアル

北遊商

北遊商では、中古遊技機の流通に関することについて、従来は機械対策委員会が中心となって教育・指導を行ってきた。

近年、システムの更新や運用における変更などが多く、また、取扱主任者に対する講習などをより細かく行う必要性から、中古遊技機流通に従事する組合員の中より実務担当者を決定し、「中古流通作業部会」を平成23年6月に発足させた。部会は、32社、62名で構成されており、リーダーは同委員会の副委員長の近藤光弘理事（㈱アイビス機販）。

今年は、取扱主任者に対して、運用に関する通達や講習などは、機械対策委員会、流通セキュリティ委員会、中古流通作業部会が合同で行い、取扱主任者の知識及び技術の向上を図っていききたいと実機研修会も計画している。

中古流通作業部会の活動

Vol.5

中国遊商



中国遊商では、平成23年11月に広島県三原市にあるフォレストヒルズゴルフ&リゾートでチャリティーゴルフコンペを開催した。

参加人数は28名で、参加費の中から1人3千円を寄付として集めた。

この大会を企画・運営した福利厚生委員会の山野法行委員長は、「チャリティーで集めた浄財は、社会福祉法人 広島修道院に寄付してもらいました。寄付先は、委員会ではいろいろな施設を検討したのですが、今回は、様々な事情により家庭で養育を受けることのできない子供たちが生活しているこの施設にしました。参加してくれた組合員の皆さんからは、今回はさらに人数を増やし、大きなコンペを企画して、多くの浄財を集めようと暖かい言葉を頂きました。松原理事長とも相談して、今年も組合として福利厚生に積極的に取り組みます」と胸を張った。

チャリティーゴルフコンペを開催

関西遊商



関西遊商のエコ活動は、担当分野に分かれて多彩だ。まず、組合事務所に「エコキャップ」と「使用済み切手」を回収するボックスを設けた。回収した「エコキャップ」はエコキャップ推進協会に送られ、そこからリサイクル業者に売却、売却益は「世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）」に寄付され、途上国のポリオワクチン費となる。また、回収した切手は、日本キリスト教海外医療協力会へ送付され、売却益は、医療十字派遣（海外医療）の資金に役立てる。次の計画は、組合事務所の照明器具。2タイプの方法を調べた。一つは、現在使用している照明器具にリフラッシュというアルミを母材とした反射板を取り付け、2本装着されている蛍光灯を1本にする方法、もう一つは、リライトと呼ばれる超高性能反射板が装着された照明器具を新たに取り付けて蛍光灯を1本使用する方法。どの方法を採用するか具体的な検討を進めることになった。

また、理事や各委員会に案内を出して参加者を募り、指導者を呼んで事務所でエコドライブ講習会も実施した。

多彩なエコ活動を今年も推進

沖縄でマングローブを植樹

ホームページに防災マニュアル

「九遊商ニュース」をHPに

実機を使った
講習会を開催



《第1回中古機流通作業部会の開催》

・中古機流通の実務を協議する会議として、第1回中古機流通作業部会が全商協で開催された。平成22年6月より開始された、新中古機流通制度のビニール袋による梱包などの保全の履行状況が検証され、今後も継続して協議していくこととなった。

2月

・宮崎市で、第10回定例理事会が開催された。
各委員会の活動状況、打刻書類に使用する表紙のセキュリティなどの件が報告された。
・第2回リサイクル・環境対策委員会が開催され、エコ（環境）に関する標語を地区遊商より集め、全商協広報誌に2組合ずつ順番に掲載していくことを決定した。

《東北遊商へ緊急支援を行う》

3月

・3月11日、全商協・会議室で第11回定例理事会を開催中、東日本大震災が発生し、書棚等が倒れ、一時会議は中断された。首都圏の交通網が機能せず、出席理事は、急きょ東京に宿泊するなどした。なお、理事会では、推進機構負担金などについて報告された。

・全商協より、東北遊商へ食料品、燃料、日用品などを緊急支援品として送った。

・3月末をもって、回胴遊商との中古機流通の相互参入が解消された。

それに伴い、それぞれの組合への加入を希望する組合員に特別措置を取られた。



東北への支援物資

4月

・全商協で前衆議院議員 葉梨康弘氏による風営法等に関する講演会が開催された。

・中古機流通に使用するセキュリティシールのデザインを変更することが、中古機流通協議会で決定した。実際の運用は、5月半ばより、順次実施。

・第12回定例理事会で、3月に発生した東日本大震災を受けて、東北遊商及びその組合員を支援するため「東日本大震災被災会員扶助規約」を制定した。

5月

・4月に制定した規約により、各地区遊商より特別賦課金として、合計約4千4百万円を集め、東北遊商へ送った。また、全商協として、見舞金790万円を送った。

・プロレス漫画タイガーマスクの主人公「伊達直人」名義による匿名寄付が全国で相次いだ。

・鹿児島県と宮崎県の境にある霧島連山の新燃岳が爆発的噴火をおこし、周辺の街に被害をもたらした。

・ニュージーランド・クライストチャーチで、M6.3の直下型地震が発生し、日本人を含む多数の死傷者が出た。

・京都大学の入学試験時間中、インターネットの掲示板に試験問題と正解を求める書きこみが投稿される事件が起きた。

《東日本大震災が発生》

・東北・三陸沖を震源とする国内観測史上最大のM9.0の巨大地震「東日本大震災」が発生した。この地震により、高さ10メートルの大津波が発生し、岩手県・宮城県・福島県を中心とする東日本太平洋沿岸に、甚大な被害をもたらした。死者、行方不明者数は約2万人、



陸に上がった漁船



津波のつめ跡

日本国内における戦後最大の自然災害となった。

・福島第1・第2原子力発電所が津波により被災して停止し、東京電力は、地域単位で順番に電力供給を止める「輪番（計画）停電」を実施した。また、原子炉を冷却するため、自衛隊、東京消防庁などによる緊急放水が行われた。

・規制値を超える放射性物質が検出されたホウレンソウなどの農作物が、出荷停止となった。

《福島第1原発事故による避難》

・福島第1原発の周辺では高濃度の放射線が検出され、半径20km圏内は、「警戒区域」に指定され、原則として立ち入りが禁止された。さらに半径20km圏外にも、「計画的避難区域」が設定され、1ヶ月後を目途に住民は避難することとなった。

・統一地方選で民主党は自民党と直接対決となった、北海道と三重県の知事選で敗北。東京都では、石原都知事が再選を果たした。

・「計画的避難区域」に指定された福島県飯館村・川俣町などから、住民の避難が始まった。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、日本の社会は大きな転換を余儀なくされた。節電をめぐる対応など、遊技業界にも、様々な影響があった2011年を振り返る。

2011年(平成23年)を振り返って

た。

《中村会長による新体制の始動》

・KKRホテル東京にて、第23回通常総会が開催され、井上威夫会長(関西)が退任し、新会長に中村昌男氏(東日本)が選出された。
・中村会長による新体制として、筆頭副会長の役職を廃止し、各委員会に担当役員を配置した。



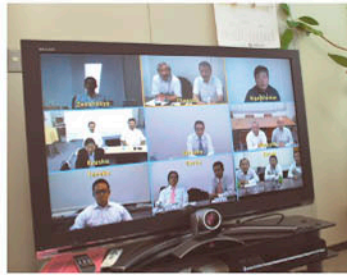
選任された中村会長

・第1回事業・広報委員会が開催され、テレビ会議の導入を決定した。その後理事会に同案を上程し、承認された。
・第4回定例理事会で、「常勤役員の報酬等に関する規程」が制定された。

・回廊遊商・会議室において、全商協・回廊遊商の連絡会議が開催された。中古機流通の型式の保全などについて、販社団体として協議を行った。
・各地区遊商にテレビ会議導入に関するネットワーク環境等の調査を行った。

《初のテレビ会議を開催》

・テレビ会議による初めての会議、第2回事業・広報委員会が開催された。音声や画像などを検証し、10月からの本格運用を目指し、調整を行った。



本格運用を開始したテレビ会議

・テレビ会議による、第3回機械対策委員会、第2回セキュリティ委員会が開催された。各地区遊商の全商協役員や事業・広報委員等が、各地区の会議の運営をサポートした。
・テレビ会議による、理事長会議が緊急に開催された。

・広報誌「全商協」第8号が発行され、中村会長による新体制の活動報告、全商協スローガン「繋げよう！安心、安全、信頼の輪」などが掲載された。

・第7回定例理事会が開催され、各地区遊商の「顔認証システム」導入予定などが報告された。

・政府は、東京電力・東北電力管内の夏のピーク時の最大使用電力の削減目標を一律15%減(昨年比)とすることを決めた。

・日本列島は、梅雨あけから猛暑に見舞われ、環境省はクールビズをさらにすすめた「スーパークールビズ」を推奨した。
・菅直人首相(当時)は、民主党代議士会で、東日本大震災への対応に一定の目途がついた段階で退陣する意向を示した。

《女子サッカーW杯で、「なでしこジャパン」が初優勝》

・ドイツで開催された女子サッカーW杯で、日本代表チーム「なでしこジャパン」が初優勝を遂げた。
・夏の電力危機を避けるため、政府は「電力使用制限令」を東京電力・東北電力管内で発動した。
・地上波テレビは、アナログ放送が終了し、地上デジタル放送に被災地を除き完全移行した。

・福島第1原発事故の賠償を進めるための原子力損害賠償支援機構法が成立した。
・ニューヨーク外国為替市場で、円相場が一時、1ドル＝75円台に突入し、戦後最高値を更新した。
・菅直人首相(当時)が退陣を表明し、民主党の新たな代表に野田佳彦氏が選ばれ、国会で第95代首相に選出された。

《野田内閣がスタート》

・「復興と原発対策を最優先の課題」として、野田内閣がスタートした。
・大型の台風12号、15号が日本列島を直撃し、土砂災害など全国で多くの被害が発生した。

・「iPhone/iPad」などで知られる米アップル社の共同創業者スティーブ・ジョブズ氏が死去した。56歳没。

・大阪府の橋下徹知事(当時)が、31日付けで辞職願を提出し、大阪市長選に出馬を表明した。

・TPP(環太平洋経済連携協定)について、野田総理が「交渉参加の方針」を表明した。

・大阪府知事、大阪市長のW選挙が行われ、それぞれ松井一郎氏、橋本徹氏の「大阪維新の会」が圧勝した。

・政府は、東日本大震災からの復興を統括する「復興庁」を平成24年3月までに発足させる準備を進めた。

お知らせ

エコ標語 8組合選

第4回

全商協のリサイクル・環境対策委員会において、
エコ（環境対策）に関する標語を8組合より募集しました。
第4回は、北海道遊商と東北遊商の標語を紹介します。

東北遊商

エコ推進
誰かがやるじゃ
先はなし

地道なエコを
コツコツと

北海道遊商

リサイクル
部品一つも 宝物

止めないで
回すその手と
拾う手を

安心点検
エコと安全をお客様へ

エコドライブ10の すすめ

第4回



⑧タイヤの空気圧をこまめにチェック

タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実な点検・整備を実施しましょう

タイヤの空気圧が適正値より50kPa (0.5kg/cm²) 不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度、それぞれ燃費が悪化します。また、安全運転のためにも定期的な点検は必要です。

⑨不要な荷物は積まずに走行

不要な荷物を積まないようにしましょう

100kgの不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。車の燃費は荷物の重さに敏感です。運ぶ必要のない荷物は、車から下ろしましょう。

⑩駐車場所に注意

渋滞などをまねくことから、違法駐車はやめましょう

交通の妨げになる場所での駐車は交通渋滞をもたらす余分な排出ガスを出させる原因となります。平均車速が時速40kmから時速20kmに落ちると、31%程度の燃費悪化に相当すると言われています。

「エコドライブ10のすすめ」(エコドライブ普及連絡会)の①から⑦までを前回までに紹介してきました。今回は最終回、⑧～⑩を説明します。
車に乗ったらエコドライブを実践し、未来へ続く道を走りましょう。

編集後記

■今年はドラゴンのように天高く“竜門に登る”年だそうで、元気が出そうな感じがしてきませんか。そうです平成24年の干支は「辰」（竜）、中国の故事に習えば、鯉が滝を登って竜になるのが登竜門。すなわち大きな成功のために乗り越える試練を指しているのだそうです。昨年は「昇運の年」となるように願っていましたが、東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われるなど、最悪のウサギ年でした。時の運勢はままならないのは判っていますが、そこは年頭の神頼みで、ドラゴンにあやかりたいものです。

■さて、2012年はスポーツファンにとっては4年に一度の「オリンピック・イヤー」、英国ロンドンで開催されるオリンピックでの日本選手の活躍をはじめ、どんな記録やドラマが生まれるか大いに楽しみです。前回の「辰年五輪」は2000年シドニー大会、柔道・谷亮子やマラソン・高橋尚子らが金メダルを獲得して日本中を沸かせてくれました。また、モータースポーツ・ファンにとっては待望の「トヨタのレース復帰」が今季、実現することです。13年ぶりにル・マン24時間耐久レースに参戦。しかも初のハイブリッドカーで、ル・マン制覇を狙うという。

■トヨタは自動車レースの最高峰、F1撤退以来、国際レースから退いていましたが、今年からはじまる「FIA世界耐久選手権」長距離耐久レースの新シリーズに参戦、ル・マンを含めた数戦に出場予定という。欧州の自動車メーカーは環境対策エンジンとしてディーゼルエンジン搭載マシンで耐久レースに挑んでいるわけで、トヨタのエコカー、ハイブリッド車の参戦の注目度は高いはず。モータースポーツを通じてのエコ対策は、大いに共感を呼びそうです。2012年が大きく飛躍する年になってもらうためにも、是非ともその成果に期待したいと思います。

(S)

NEWS

新台出荷を25万台減と予測

昨年11月16日に開催されたダイコク電機主催の「DK-SISセミナー」にて、2011年の新台出荷台数の推計値が発表された。

それによると、パチンコは前年比50万台減の235万台、パチスロは同25万台増の116万台。パチンコ・パチスロの合算では、同25万台減の351万台の見通しと報告された。

また、新台出荷台数に平均購入価格を掛けた遊技機市場は、前年比900億円減の1兆1000億円と推計した。

遊技機の省電力化の方針を示す

ゴト対策に関する4団体会議が昨年9月30日に、遊技機の省電力化に関する当面の取り組み方針を示して

いたことが、11月16日に都内で開かれた全日遊連理事会後の定例会見で報告された。

パチンコの節電設計については、従来から取り組む照明のLED化や、低消費電力部品の採用に加え、待機時の照明および液晶の明るさの低減を柱に、台あたり従来比20%の削減目標が掲げられた。一方、パチスロは省電力部品の採用および高効率の回路設計と並行して、音量を抑制するとともに抑制レベルを統一化。今後型式申請するパチスロから順次対応していく方針。

4団体会議は、全日遊連、日遊協、日工組、日電協で構成され、今回の方針は、パチンコは日工組から、パチスロは日電協からそれぞれ示された。

大阪府内で節電対策を実施

今冬の電力供給不足が予測される関

西電力管内において、大阪府遊技業協同組合（大遊協）の決定に基づき、大阪府内のパチンコホール各店が電力供給不足に対応するため昨年12月から節電対策を実施している。

節電対策は、月1日以上の休業と、営業時間の30分短縮（閉店22時30分）が柱となっている。実施期間は月1回以上の休業は12月1日から今年3月末までの約4か月間。営業時間の短縮は12月19日から3月23日までの約3か月間と設定した。また、営業時間の短縮にあわせてネオン・看板等も閉店30分前（22時）に消灯を実施するほか、昼間の消灯にも同時に取り組み、さらに屋外灯や不要と思われる場所の減灯または消灯にも努め、エアコンを通常よりおおむね2度下げる。これら対策の実施期間も営業時間短縮と同じ12月19日から3月23日までとなっている。

次号は4月号です。
「取扱主任者と保証書」特集を
掲載予定です。



<http://www.zenshokyo.jp/>